

セメント協会の低炭素社会実行計画

		計画の内容
1. 国内の事業活動における 2020 年の削減目標	目標水準	<p>2020 年度のセメント製造用エネルギー(*1)を 2010 年度比で、原油換算(*2)として 5.6 万 kl 削減する。</p> <p>なお、本削減量は 2020 年度の生産量見通しを 56,210 千 t とし、BAU を前提とする。</p> <p>(*1) セメント製造用エネルギーの定義は次のとおりである。 [セメント製造用熱エネルギー(※)]+[自家発電用熱エネルギー(※)]+[購入電力エネルギー]</p> <p>(※) エネルギー代替廃棄物による熱エネルギーは含めない</p> <p>(*2) 省エネ法で決められている換算式を使用 (1PJ=2.58 万 kl)</p>
	目標設定の根拠	<p>① 省エネ設備(技術)の普及を拡大し、エネルギー効率を引き上げる (▲1.7 万 kl)。</p> <p>② エネルギー代替廃棄物等の使用を拡大し、化石エネルギーの利用を削減する (▲3.9 万 kl)。</p>
2. 主体間連携の強化 (低炭素製品・サービスの普及を通じた 2020 年時点の削減)		<p><「コンクリート舗装における重量車の燃費の向上」による削減効果></p> <p>道路の舗装面が「コンクリート」の場合、「アスファルト」の場合に比較して重量車の「転がり抵抗」が小さくなり、その結果として重量車の燃費が向上する。燃費の向上は、燃料の削減につながることから、運輸部門における CO₂ の排出削減に貢献する。</p> <p>セメント協会の調査では、アスファルト舗装を 100 とした場合、コンクリート舗装での同一距離走行時の燃料消費量は 95.4~99.2 となった。これを元に、積載量 11t の大型車が 100km 走行した場合の CO₂ 削減量を試算した結果、削減量は 1.14~6.56kg となった。</p> <p>1 台あたりの削減量は小さいが継続的に削減が可能。</p> <p><循環型社会構築への貢献></p> <p>セメント産業は、他産業などから排出される廃棄物・副産物を積極的に受入れてセメント製造に活用しており(*3)、廃棄物最終処分場の延命に大きく貢献している。</p> <p>(*3) 2011 年度の廃棄物・副産物使用量の実績：27,073 千 t</p>
3. 国際貢献の推進 (省エネ技術の普及などによる 2020 年時点の海外での削減)		<p>世界的にみたセメント製造用エネルギーの削減に貢献すべく、日本のセメント製造用エネルギーの使用状況、省エネ技術(設備)の導入状況、エネルギー代替廃棄物等の使用状況などを、ホームページを通して、また国際的なパートナーシップへの参画により世界に発信する。</p> <p>併せて廃棄物の利用状況も発信し、世界的にみた資源循環型社会への構築に貢献する。</p>
4. 革新的技術の開発 (中長期の取組み)		